

日本国内の公共交通における 課題と解決事例

澁谷 義久

【要 旨】

路線バスは、マイカーの増加による利用者減少、規制緩和による市場原理の導入、乗務員不足と労働問題といった様々な問題に直面し、相次ぐ減便や廃線、事業者の倒産によって地域の足が失われるケースが後を絶たない。本論文ではこれらを問題提起し、特に利用者減少問題については解決した例を挙げていく。まず第2章では、これらの問題を述べる前にバスについて詳しく述べ、他の交通機関に対してバスの適正範囲を位置づける。第3章では、日本国内の路線バス事業における様々な問題を提起する。第4章では、「オムニバスタウン制度」を中心に、都市でバスの改善を中心に行われた交通政策について述べる。第5章では、乗合タクシーなどバスに代わる交通について述べる。第6章では、過疎地域など日本国内で行われた地域公共交通のユニークな事例を紹介し、第7章でこれらをまとめる。

【講評】

本論文は、今なお重要な地域公共交通であるバスをめぐる現状と課題を多角的に分析した労作である。筆者は先行研究や多数の事例、そして多種多様なデータを用いてバスを取り巻く実情を記述・分析している。中でも公共交通と市場原理の容易ならざる関係性を事例分析によって明快に論じた第3章第2節は秀逸である。主に地域政策的・経営学的観点からの考察が展開されているが、学術研究としての系譜上の位置づけや先行研究の活用については今少し検討の余地が残る。とはいえ、本論文は現状分析と課題の析出にとどまらず、実践的・具体的な課題解決の方向性を提示しており、社会的意義のある研究成果を析出した優秀な卒業論文である。